

岩手県山田町レポート

平成23年6月22日 東山田中学校学校運営協議会メンバー4名が今後の「つながり」をつくるため山田町を訪問。

コミュニティフェスタ、サロンコンサート等で集められた募金(6月22日現在369,863円)のうち第1回として30万円を学校と子どものために使っていただくために直接お届けしました。

教育委員会・山田南小学校



正面に見えるビルが町役場。
1階まで津波が押し寄せたそうです。



山田町教育委員会でお話をうかがいました。



蔵や鉄筋の建物が残っていますが、海までの町はすべて津波とその後の火災で被害をうけました。



町役場横にかつての津波の教訓が残っていました。



山田南小学校では突然にもかかわらず、子どもたちの様子など、うかがうことができました。



震災直後に横浜市都筑区池辺地区から届けられたプランターの花が咲いていました。

道の駅やまだ

ボランティアセンター



道の駅は大切な買い物の場所となっていました。



ボランティアも地域の人も必ず寄るところになっています。



仮設住宅に移ると物資が届きにくくなるそうです。自由にもっていけるコーナーですが、夏物が不足!



現在、靴は十分あるそうです。子どもから大人までの夏物をお届けすることにしました。



この日も神奈川県からのバスなど到着。100名以上のボランティアががれき撤去などを。



町の中心部から離れると、このような状況でした。

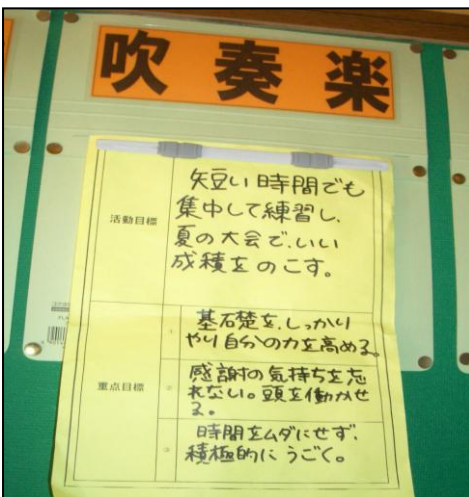
山田中学校



震災後、学校が一丸となって前へ進んでいる様子がわかりました。



開校 10 年目の校舎
掃除の徹底、掲示物の美しさに驚きました。



部活ごとに活動目標・学年ごとの重点
目的が掲げられていました。



生徒会新聞は壁新聞です



ロビーには輝かしい実績が・・・



体育祭の代休の訪問にもかかわらず、副校長先生が
校内を案内してくださいました。



この日はとりの山田高校の行事が開催されていま
した。(山田高校は避難所となっているため)

学校運営協議会会長小松先生が山田町教育委員会について、7月4日の日経新聞コラムに書かれました。

「生かされて 明日へ」。東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県山田町教育委員会が6月にまとめた復興に向けての全体図だ。

6月中旬に訪れたこの町も復興は緒に就いたばかりだった。それでも町民の学校に対する信頼と支援は、教育委員会と学校にとっては頼もしく、常に子供と共に前を向いて進むうとする教職員の励みになっている。

岩船敏行教育長は大震災から1カ月後に、次のような心境をまとめている。「今はつらくとも、前を向いて進む。それが、生かされているものの務めかな。まもなく、新学期。子供たちの元気な声が後押ししてくれるはずだ。子供たちに明るい笑

きょうがく あいちようず
教 学 相 長

岩手・山田町教委の提言 教職員も「生かされる」

顔を届けよう。がんばろう、先生方。がんばりましょう、みんな。生かされて、明日へ」

町内の各学校でも、できるだけ日常の教育活動に復帰できるよう、淡々と授業に励み子供たちへの対応をしている。依然として避難場所になっている学校や校庭に仮設住宅が造られた学校もある。避難所での生活の中で、基本的な生活習慣が乱れがち

な心配もある。

町に1人だけの指導主事は2日前の地震を経験し、3月11日の午前中に「三陸地震への対応について」という文書を各学校にファクスで送ったばかりだったという。「形あるものをすべて失っても、人間の尊厳だけは消すことができない」。教育委員会の決意を迅速かつ機動的に実行できる支援が必要だ。

(玉川大学教授 小松郁夫)

また、夏物衣料が不足していることがわかり、やまたろう本部から送ることにしました。山田町観光協会 HP「山田かきくけこ通信」にも掲載されています。

<http://yamada-kankou.seesaa.net/>

